

国立国会図書館 風俗金魚傳 208-680

ガラス使用

風俗金魚傳
上編合冊

208
4
680



30
29
28
27
26
25
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8

風俗金魚傳上編有序

社下八編

書費錦森堂頃又余の請ふ具之に近世清人の著
翹傳へ天朝空曆矣未の歳小通俗譯文の一書世に出し
視聽小熟し然れども竹馬の向史猶身三行を何と
せりとの和文を只原本の縛縛せしめて已物とせられざる亦
水滸の如く胎を奪ひ骨を換へ本邦の更々易く新しうあり
得く鑛り欲生願ふ許容の之の請ふに理りあれは這冊子
作らるるれ彼金翅傳の淫風を宣く時好媚佳人を傷損し
導りぬの似るもの余が意を懐くることなり童二十回の結局
至く因を推し果を談し勸懲警識叮嚀に迷津の代とるあり
泛々唐作者の及ぶるわねる彼翠翹が意志則作者の心ゆ

壹

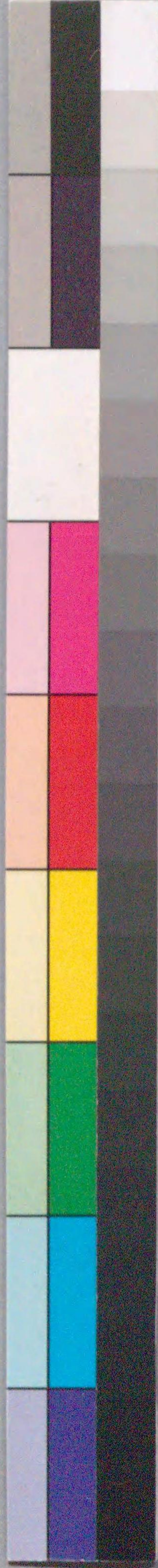
婦女子の情のあまきこれ亦世の才女才眉を親よ
行らるれ敬言せむ為る飲そちまされぬもあまき始は
三合道姑の神通の余がその故轍を補き更一兔園を
一部の要領を惜しむ彼が説とる疎幽や依この言
と三狼襲小過の終り易言も更なるを彼書と合し覽る
彼井田の故實を説くは法瀬成山跡のり殺の橋の下ゆく
金翅傳の秀句似るも金重魚子名の中眉余金池乃金魚の
話説を巻端小見しと曾筆用成合せるの

文政十二年己丑春正月吉新版 曲亭馬琴叙

金魚傳上編

三













金魚傳 二編

七



金魚傳 上編



金魚傳上巻



金魚傳上巻



魚の伝説



金魚伝説





曲亭馬琴著 本篇八巻合本四冊每帙各二冊

原本の唐山の金魚傳を和解し
う兒世繪草席此 新作物

風俗金魚傳上海之武

翻案の浪速やる金魚傳と名不志る記
新編 孝烈の四巻の續鏤版
製本 かくるるの

歌川國安画 江戸馬喰町二丁目木林屋次兵衛板









Handwritten text in vertical columns, likely a chapter introduction or a list of items. The text is dense and covers most of the page area.















家傳神女湯... 精製奇應丸... 能照丸... 婦人... 製茶本家... 弘前... 取次...



五

借馬途小幡此四郎が啞使の食言折言文
 舊計新策赤間の廓る縁喜増屋も譬言喻の
 情と奈と怨を復せし 鵜橋東太郎が留別の後話

借馬途小幡此四郎が啞使の食言折言文
 舊計新策赤間の廓る縁喜増屋も譬言喻の
 情と奈と怨を復せし 鵜橋東太郎が留別の後話



國安画

馬琴著 風俗金魚傳上編之三

森屋版

鴉鳥花を損小山廻四郎が詐欺の身賣手實
 前因後果高津の里る地獄の制度も鄙語の
 途が境家の浮世の義理の魚子金重郎が金魚の前北
 郎を撮て親成救ひし

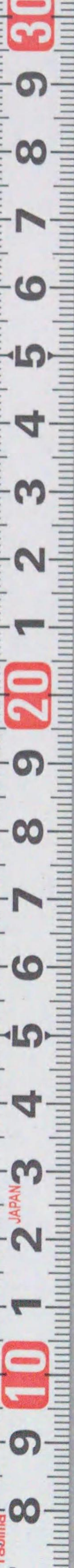






金魚傳上巻

廿二

















薄命似桃花 悲來泥與
 沙 縱美不堪惜 雖香何
 足誇 東零西落 知是誰
 家 想到傷情眉 懶画只
 落數番惆悵 幾度咨嗟
 呀呀不索 怨他後來國
 色招人妬 一聽天公斷
 送咱右原篇 調月兒高

馬琴著
 文政己丑孟春
 新刻合本四冊

金魚傳
 上篇 四

國安画
 伯樂第二坊賈
 書行錦森堂梓

七







金魚傳上編

廿二



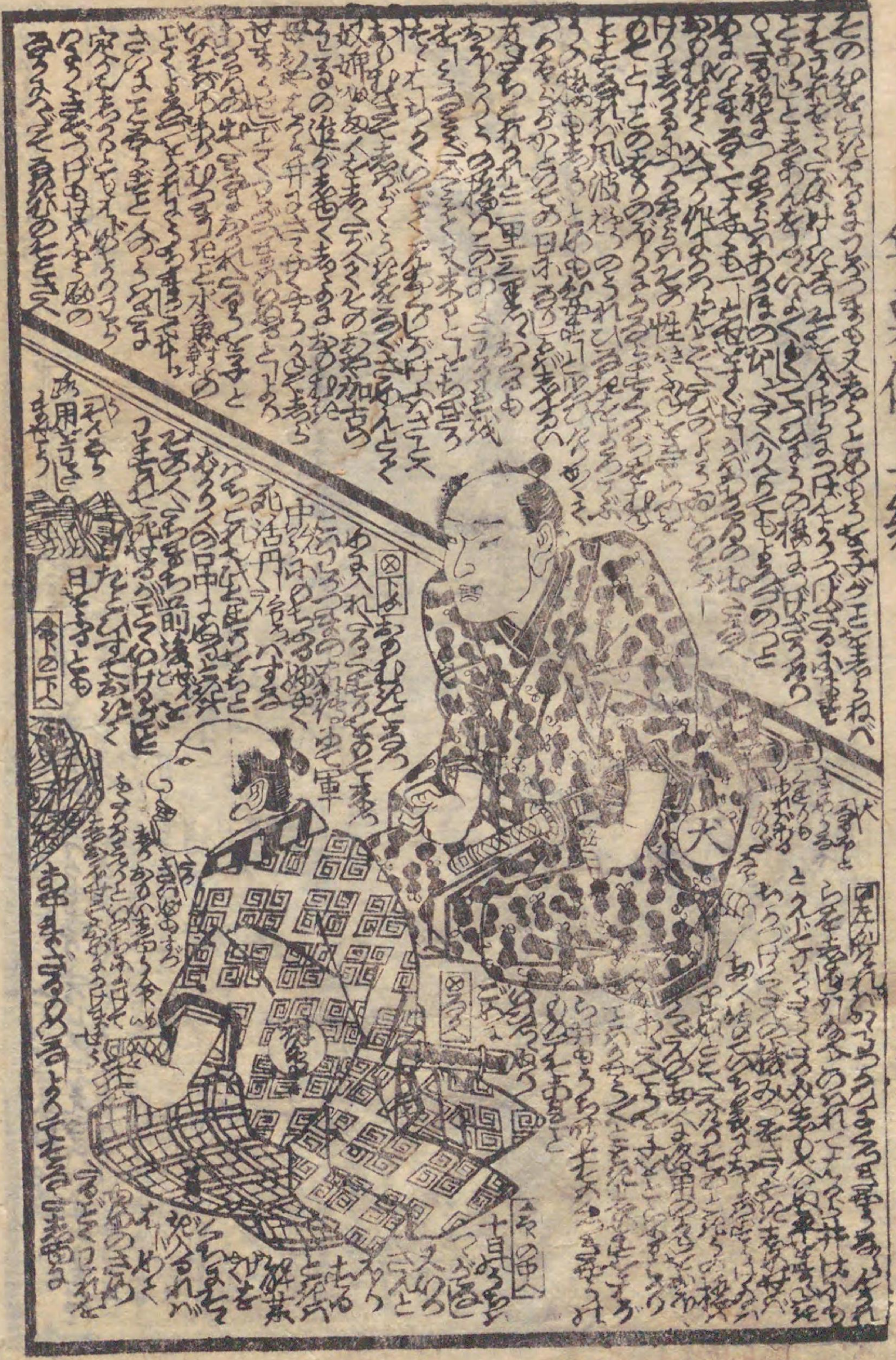


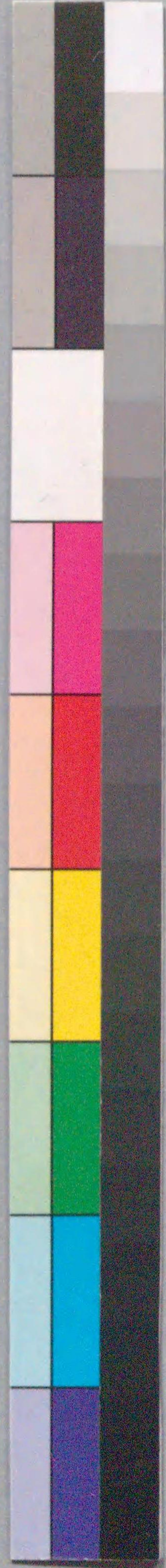






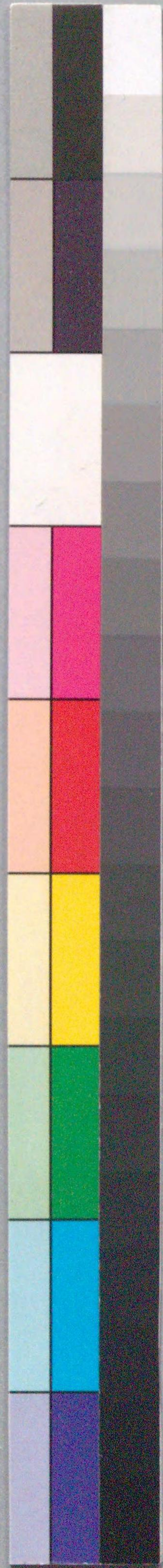




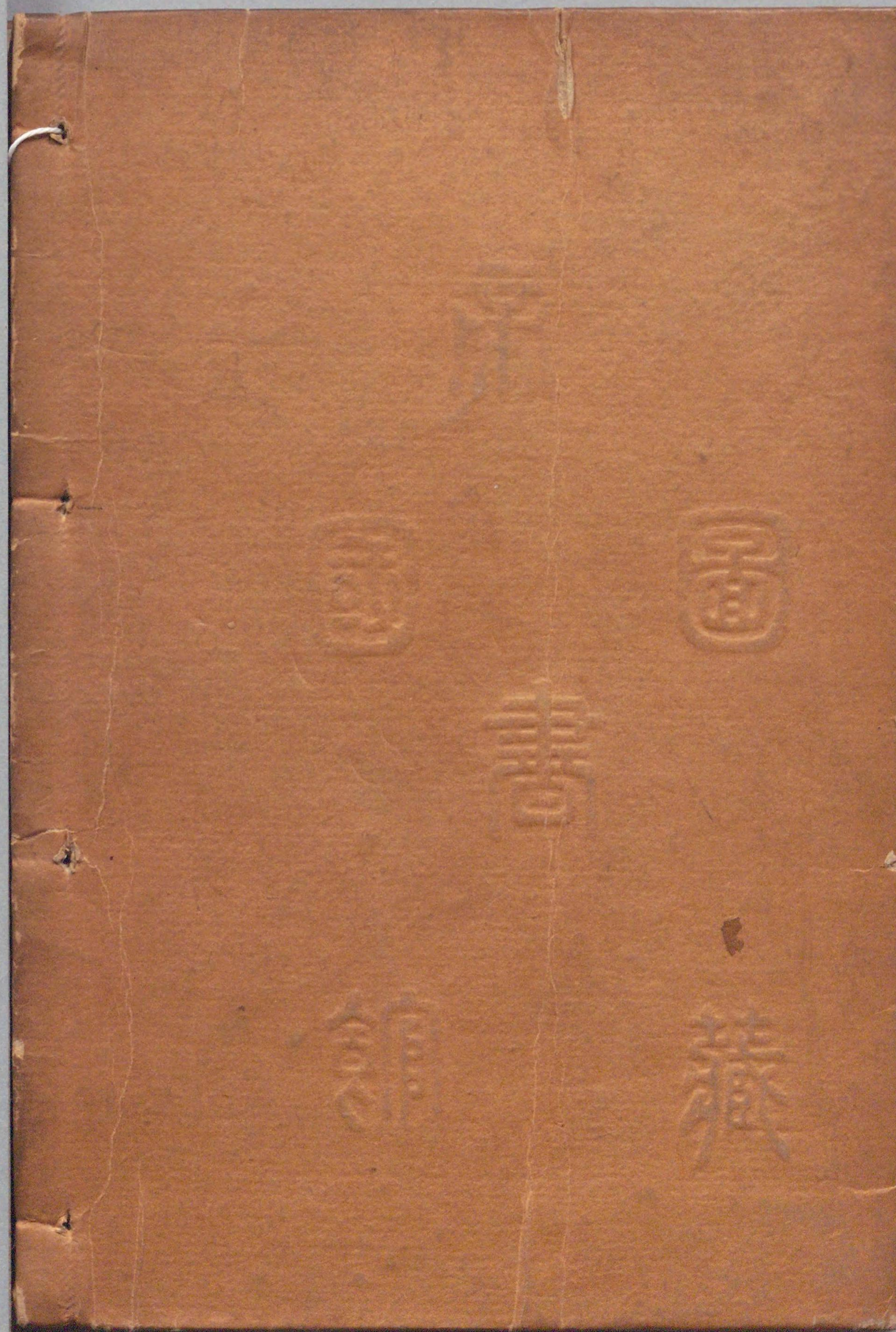


208
4
680





国立国会図書館 風俗金魚傳 208-680



ガラス使用

